

2010年4月21日

報道関係各位

ノバルティス（スイス）が発表しましたリリースの日本語訳（要約）をご参考までにお届けします。

ノバルティス2010年第1四半期業績： ヘルスケア関連ポートフォリオにより高成長を達成 イノベーション、成長、生産性が進捗

- **製品ポートフォリオの活性化が、2010年第1四半期の好業績を下支え：**
 - 売上高は前年同期から25%増収（為替の影響を除く実質ベース(以下実質ベース)で18%増収）し、121億米ドルに。グループ全体の売上高に占める最近上市された製品（19億米ドル）の比率が16%となったほか、A（H1N1）型インフルエンザワクチンの契約に伴う11億米ドルの売上計上が貢献
 - 営業利益は前年同期比50%増益（実質ベース42%増益）の35億米ドル。コア営業利益は48%増益（実質ベース41%増益）の39億米ドル、コア売上高営業利益率は31.9%に改善
 - 純利益は49%増益（実質ベース41%増益）し、29億米ドルに。コア純利益は44%増益（実質ベース36%増益）の33億米ドル
 - 1株当たり純利益（EPS）は、前年同期比48%増益（実質ベース40%増益）の1.29米ドル。コアEPSは44%増益（実質ベース36%増益）の1.45米ドルに
 - 好業績およびキャッシュ・コンバージョン・サイクル短縮化の取り組みにより、配当前フリーキャッシュフロー（29億米ドル、93%増）が前年同期の2倍近くに拡大
- **イノベーション、成長、生産性へ継続的にフォーカスした新経営陣の戦略的優先課題の遂行で、2010年も引き続き進捗**
 - イノベーションで業界をリード：Menveoワクチンの米国・EUでの承認および新薬3品目の日本での承認；タシグナ（がん）およびGilenia（多発性硬化症）が米国で優先審査品目に
 - 成長を加速：主要新興市場における事業拡大の継続、エベベファーマ社の買収に伴うサンドの成長加速、中国および米国における営業モデルの適応
 - 生産性を向上：成長と利益率改善を目的に、全事業が生産性向上の取り組みおよび的を絞った経営資源配分に注力
 - アルコン社が新たな成長基盤に：アルコン社株式77%の取得は、計画通り2010年下半期に完了予定。この合併提案はすべての利害関係者の利益にかなうものである

主要数値

第1四半期（1～3月）

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比 (%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注2)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
売上高	12 131	11 039	9 709	25	18
営業利益	3 511	3 195	2 347	50	42
純利益	2 948	2 683	1 975	49	41
1株当たり純利益 (EPS)	(米ドル)	(円)	(米ドル)		
	1.29	117	0.87	48	40
配当フリーキャッシュフロー	2 903	2 642	1 506	93	
コアベース^(注1)					
売上高	3 865	3 517	2 611	48	41
純利益	3 309	3 011	2 302	44	36
1株当たり純利益	(米ドル)	(円)	(米ドル)		
	1.45	132	1.01	44	36

注1) コアベースの営業利益、純利益および1株当たりの純利益 (EPS) は、無形固定資産償却、買収関連要素の影響およびその他の重要な例外的な項目を除外した数値となっています。詳細については原文リリース (英語版) P31 をご覧ください。

注2) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース (英語版) P25.4.Principal Currency Translation Rates を使用。1米ドル=91円 (2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入) にて換算したものです。

※イタリック体で示されたすべての製品名は、ノバルティス グループ企業が保有またはライセンス供与されている商標です。

2010年4月20日、バーゼル発 — ノバルティスCEOのジョセフ・ジメネスは、業績について次のようにコメントしています。「2010年第1四半期にヘルスケア関連ポートフォリオ全般にわたる高成長を達成したことをうれしく思っています。医薬品事業の持続的成長と、A (H1N1) 型インフルエンザワクチンの供給契約による大きな貢献を筆頭に、すべての事業が順調に進捗しています。ノバルティスは、イノベーションにおける主導的立場のさらなる向上、成長の加速、生産性向上に注力しており、これにより自社ポートフォリオからより大きな持続的価値を生みだせるものと確信しています。2007年以降に上市された製品の貢献拡大がノバルティスのポートフォリオを活性化しており、これは私たちがイノベーションに力を注ぎ、研究開発投資を適切に行ってきたことの成果であるといえます。私たちはまた、利益率改善はもちろんのこと、新薬開発および新規市場開拓への投資継続を可能とするために生産性向上の努力を強化しています。ノバルティスは、眼科領域における新たな成長基盤を構築するアルコン社統合の準備を進めており、2010年も成長の勢いを加速するとともに成功を続けています」

グループ業績概要

2010年第1四半期（1～3月）

グループ全体がイノベーション、成長、生産性に集中的に注力した結果、特に最近上市された製品の急速な売上拡大と、新薬およびワクチンの承認取得が貢献し、2010年第1四半期のノバルティス業績は力強い結果を示しました。

売上高は前年同期比25%増収 (実質ベース 18%増収) の121億米ドルとなりました。すべての事業の業績が向上し、特にA (H1N1) 型インフルエンザワクチンの売上およびグループ全体で最近上市された製品の急速な成長 (19億米ドル) が貢献しました。為替変動が米ドル報告ベースの増収率に対し、7ポイント寄与しました。医薬品事業 (73億米ドル、実質ベース 7%増収) はすべての地域で増収となり、販売量ベースでの堅調な伸びを継続しました。ワクチン・

診断技術関連事業（14億米ドル、実質ベース 436%増収）では、11億米ドルに上るA（H1N1）型インフルエンザワクチンの売上計上がありました。サンド（20億米ドル、実質ベース 9%増収）は、新製品上市の成功ならびに2009年9月に買収したエベベ ファーマ社の統合により増収となりました。コンシューマーヘルス（15億米ドル、実質ベース 7%増収）は、すべての事業が好業績を収めるとともに各市場の伸びを上回る成長を達成しました。

営業利益は、前年同期比50%増益（実質ベース 42%増益）の35億米ドルとなりました。販売量増加に牽引された売上拡大およびワクチン・診断技術関連事業の大きな貢献に、為替変動による8ポイントのプラス影響が加わりました。売上高営業利益率は、前年同期の24.2%から4.7ポイント改善し、28.9%となりました。当期および前年同期から例外的項目ならびに無形資産償却費を除外したコア営業利益は48%増益（実質ベース 41%増益）の39億米ドルとなり、コア売上高営業利益率は前年同期の26.9%から5.0ポイント上昇し、31.9%となりました。

純利益は、前年同期比49%増益（実質ベース 41%増益）の29億米ドルとなりました。これは、関連会社収益および金融収益による貢献が支払利息増加と税率上昇の影響を上回った結果です。1株当たり純利益（EPS）は、純利益の伸びに伴い前年同期の0.87米ドルから大きく増加し、1.29米ドルとなりました。当期のコア純利益は前年同期比44%増益（実質ベース 36%増益）の33億米ドル、コアEPSは前年同期の1.01米ドルから44%増益（実質ベース 36%増益）の1.45米ドルとなりました。

イノベーション、成長、生産性において進捗

ノバルティスは、革新的医薬品、予防のためのワクチン、費用対効果の高いジェネリック医薬品、セルフケア製品を含む幅広いヘルスケア関連ポートフォリオにより、世界各国の患者さんのニーズに応えるための戦略を引き続き進めてきました。このポートフォリオの核をなすのはイノベーションへの持続的注力であり、これが患者さんに健康回復の機会を提供する画期的医薬品の開発につながってきました。

世界的な医薬品需要と医療費抑制の圧力が一度に高まる中、2010年1月に任命された新経営陣が、世界で最も成功し尊敬されるヘルスケア企業になるというノバルティス グループの目標と合致した、イノベーション、成長、生産性を実現するための優先課題を策定しました。

患者さん、支払機関、医師に対するより大きな価値創造を目的とするこれらの優先課題には、（1）イノベーションにおけるノバルティス グループの主導的立場のさらなる向上、（2）新製品上市の成功、事業ポートフォリオ強化のための投資、新興市場における事業拡大を通じた持続的成長の達成、（3）利益率改善ならびにイノベーションと成長への投資に向けた経営資源を確保するための生産性向上の取り組みが含まれます。

イノベーション

イノベーションはノバルティスの成長のカギを握るものです。ノバルティス グループの市場における確固たる地位は、一貫した研究開発投資および患者さんの治療水準向上へのコミットメントの成果です。

新製品の承認において業界をリードするノバルティスは、死に至る可能性もある細菌性疾患である髄膜炎菌性髄膜炎の主要な4つの血清型に対して予防する新規ワクチン*Menveo*の承認を米国・EUで2010年第1四半期に取得しました。日本では、アフィニトール（腎細胞がん）、エクア（2型糖尿病）、エックスフォージ（高血圧症）の3品目の医薬品の承認を1月に取得しました。ノバルティス グループで2番目に大きな市場である日本では、2009年にも6品目の医薬品の承認を取得しています。

2009年末に米国で申請したタシグナ（がん）、*Gilenia*（FTY720、多発性硬化症）の2品目は、当期において患者さんに対する潜在的ベネフィットが評価されました。米国食品医薬品局（FDA）は、これらの2件を、治療を大きく前進させる医薬品や適切な治療法が存在しない疾患に対する治療薬の審査を加速する優先審査品目に指定しました。当期には、*Menveol*について、このワクチンの使用を2~10歳の小児に適応拡大する申請も米国で行いました。

多くの開発プロジェクトが2010年の申請に向けて進展しています。そのうち、アフィニトールの2つの適応追加と、SOM230（クッシング病）、LBH589（ホジキンリンパ腫）、EPO906

(卵巣がん)の開発プロジェクトとして初めての申請を含む最大5つのプロジェクトがオンコロジー領域となっています。この他に髄膜炎菌性髄膜炎の血清群Bに対する世界初のワクチンとなる可能性があるMenBの初めての欧州での申請などがあります。一方で、ASA404(がん)の非小細胞肺癌(NSCLC)を対象とした2件の第Ⅲ相試験のうちの1件は、患者さんのベネフィットに関する中間解析の結果、3月に中止となりました。

成長

新興市場における地位向上、規模を生かした世界的事業の構築、新たな営業スキルの開発、人材開発などの取り組みとともに、適切な研究開発投資の成果である新製品がノバルティスのポートフォリオを活性化しています。最近上市された製品の売上高は、当期において前年同期比68%増収の19億米ドルとなり、グループ売上高に占める比率は前年同期の12%から16%に上昇しました。医薬品事業では、最近上市された製品の2010年第1四半期の売上高が15億米ドルとなり、医薬品売上高に占める比率が前年同期の14%から20%に上昇しました。

金融危機がいくつかの国で影響を続けているにもかかわらず、新興市場における的を絞った事業拡大が大きな売上成長につながっています。当期の新興市場上位6カ国における売上高は、中国・インドが牽引する形で前年同期比38%増収(実質ベース 22%増収)の12億米ドルとなりました。ブラジル、ロシア、韓国も含むこれら上位6カ国の売上高は、グループ全体の売上高の9.6%を占め、トルコにおける医療費抑制策によるマイナス影響を上回り、前年同期の8.7%から上昇しました。

世界各国のヘルスケア市場は、医療費抑制策の強化、当局審査の一層の厳格化、医師・支払機関の役割変化などの要因により、急速に変化を遂げています。ノバルティスはこうした変化への対応策を常に探求しています。3つの重要な新規取り組みが2010年第1四半期に発表されました。

中国では、政府とノバルティスが協力して、医療へのアクセスおよび品質を改善するための大規模な長期的投資を実施する中、中国各地域の多様性を理解し、現地市場ニーズにより対応するための医薬品事業の新たな地域運営組織が稼働しています。

米国では、今後数年間にわたり数多くの新しいスペシャリティ医薬品の承認が期待される一方で、ディオバンなどの医薬品の特許失効が予定されるという製品構成の変化に先手を打つ形で、プライマリーケアとスペシャリティの両市場における変化するポートフォリオの潜在的価値の最大化を目的として、米国医薬品事業のさらなる合理化を実施しました。2010年4月に発表されたこの構想では、多発性硬化症、呼吸器疾患、中枢神経系疾患からなる3つのスペシャリティ事業の全国組織を立ち上げ、既存のオンコロジー事業部を補完します。また、4つめの循環器領域を含むプライマリーケア事業は、4つの地域ユニットに統合されます(現在の5ユニットから減少)。フルタイム換算で約383の主として本社ベース機能のポジションが社会的責任を果たす形で削減される予定であり、そのうち35%は空席となっているポジションを補充しないことにより削減する見込みです。2010年第2四半期に一時的費用24百万米ドルを計上予定であり、2011年以降の年間コスト削減予想額は56百万米ドルとなっています。

さらに、米国、欧州上位国、日本を含む45カ国(グループ売上高の95%をカバー)における連携加速を目的とした“Customers First(顧客第一)”の活動を試験的なプログラムの後、2010年2月に開始しました。各国の部門横断チームが主要顧客との機会拡大の方法を検討するとともに、顧客サービスおよび生産性の向上に取り組んでいます。

生産性

ノバルティスは現在、事業活動全般にわたる迅速性・効率性・生産性および資源配分への継続的フォーカスを実施しており、これにより利益率改善や、有望な開発プロジェクトおよび新興市場などの将来の成長への投資に必要な経営資源の確保につなげています。

2010年第1四半期のコア売上高営業利益率は、生産性の継続的な向上が寄与し、前年同期から5ポイント改善の31.9%となりました。当期における利益率改善の主な要因には、新製品上市をサポートする一方で現地の市場ニーズに合わせた販売組織を構築するための“geo-tailoring”戦略が奏効し、医薬品事業における販売費の売上高に対する構成比率が前年同期の29.5%から27.9%に低下したことが挙げられます。こうした利益率改善効果がありましたが、在庫削減の継続や生産性向上の努力が生産能力の過剰や間接固定費配賦の減少につながったことに一部起因する売上原価の上昇により相殺されました。生産部門の簡素化については、現在検討中です。サンドは引き続き工場の生産性向上を進めており、これにより価格低下の影響を吸収するとともに、コア売上高営業利益率が2.4ポイント改善され、22.5%となりました。コンシューマーヘルスは、粗利益率の継続的改善により、売上高営業利益率へのマイナス影響なしに *Prevacid24HR* の米国上市への大規模投資を行うことができました。

アルコン社の買収完了に向け、2010年第1四半期に前年同期比93%増の29億米ドルを計上した配当前フリーキャッシュフローの改善にさらに注力していく必要があります。当期におけるキャッシュフローの改善は、A (H1N1) 型インフルエンザワクチンの大幅な売上拡大および各部門においてキャッシュ・コンバージョン・サイクルを大幅に短縮するプログラムを実施したことが直接関係しています。ノバルティス グループは、アルコン社買収完了から4年以内に実質無借金に戻すことを目標にしています。グループ内外への投資は引き続き成長分野を対象に実施し、グループ資本コストへのプレミアムの上乗せとヘルスケア関連ポートフォリオの拡充につなげていきます。

アルコン社

眼科領域の世界的リーダーであるアルコン社が加わることにより、高成長を遂げる眼科領域に新たな成長基盤を構築します。ノバルティスは1月4日に、アルコン社を完全子会社化する計画を発表しました。合意に基づく77%の株式取得（2010年下半期の完了に向け計画通り進捗中）に続き、株式交換により残り23%のアルコン社株式を取得します。スイスの法律に基づき合併が実施された後、アルコン社はチバビジョンおよび特定のノバルティス眼科用医薬品を統合し、ノバルティスの新たな一部門となります。

2010年業績見通し

ノバルティスは2010年も勢いを加速しており、事業拡大ならびに生産性向上の継続により、一桁台半ばの伸び率での為替調整後のグループ売上高（アルコン社を除く）およびさらなるグループ売上高営業利益率の改善という2010年通期業績予測をあらためて確認しています。A (H1N1) 型インフルエンザワクチンに関わる合意済みの各国政府への供給契約の履行により、2010年第1四半期において大きな売上・利益貢献があったため、上記の業績予想はさらに上積みされる可能性があります。第1四半期のA (H1N1) 型インフルエンザワクチンの売上高は、期初のグループの目標を約400百万米ドル上回りました。当年の為替レートが現在の水準を維持した場合、報告ベースと実質ベースの成長率はほぼ同じになると予想しています。

医薬品事業は、不安定な価格状況の中、2009年以降の販売量ベースでの力強い成長を続けており、為替調整後で一桁台半ばから後半の成長となる2010年通期売上高が見込まれます。ワクチン・診断技術関連事業は、A (H1N1) 型インフルエンザワクチンによる例外的な売上貢献に加え、新たに *Menveo* ワクチンを米国・欧州で上市するとともに、新興市場での的を絞った事業拡大を行います。サンドは、すべての地域およびエベベ ファーマ社統合の貢献、ならびに生産性への再注力により、2010年は増収ペースを加速します。コンシューマーヘルスは、好調な滑り出しを見せた第1四半期に続き、市場の伸びを上回る成長の継続を目指します。

ヘルスケア事業 業績概要

医薬品事業

第1四半期（1～3月）

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
売上高	7 291	6 635	6 433	13	7
営業利益	2 327	2 118	2 062	13	7
売上高比 (%)	31.9		32.1		
コア営業利益	2 431	2 212	2 171	12	6
売上高比 (%)	33.3		33.7		

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース（英語版）P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円（2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものです。

売上高

販売量増加が牽引し、売上高は前年同期比13%増収（実質ベース 7%増収）の73億米ドルとなりました。最近上市された製品の2010年第1四半期の売上高は15億米ドルとなり、医薬品売上高に占める比率は前年同期の14%から20%になりました。ルセンティス、エックスフォージ、Exelon Patch、エクジェイド、Reclast/Aclasta、Tekturna/ラジレス、タシグナ、アフィニトール、Onbrez Breezhaler、Ilaris、Fanaptを含む、2007年以降に発売された製品の当期における貢献は、実質ベースの増収率7%の大部分を占めました。

すべての地域が引き続き製品ポートフォリオ転換の恩恵を受けましたが、なかでも欧州（28億米ドル、実質ベース 10%増収）は最近上市された製品の割合が売上高の25%に達しました。中南米・カナダ（6億米ドル、実質ベース 12%増収）は堅調な伸び率を維持しました。日本（7億米ドル、実質ベース 4%減収）は4月の2年に一度の薬価改定実施に先立った需要低下の影響を受け、2009年以降9品目の新薬の承認を取得したことによる勢いが妨げられました。新興市場上位6カ国（690百万米ドル、実質ベース 9%増収）は中国、インド、韓国、ブラジルにおける二桁成長が牽引し、トルコでの医療費抑制策によるマイナス影響を上回りました。

すべての疾患領域が事業拡大に貢献しました。最大の疾患領域であるオンコロジー領域（24億米ドル、実質ベース 14%増収）は、グリベック（10億米ドル、実質ベース 8%増収）とフェマーラ（344百万米ドル、実質ベース 15%増収）の成長持続、最近上市されたエクジェイド（179百万米ドル、実質ベース 39%増収）、タシグナ（75百万米ドル、実質ベース 102%増収）、アフィニトール（41百万米ドル）の貢献に牽引されました。循環器・代謝領域（19億米ドル、実質ベース 7%増収）は、日本における2年に一度の薬価改定を前に需要低下があったディオバン（14億米ドル、実質ベース 1%減収）の売り上げ低迷による影響を受けました。中枢神経・眼科領域（901百万米ドル、実質ベース 24%増収）は、ルセンティス（364百万米ドル、実質ベース 43%増収）およびExelon/Exelon Patch（251百万米ドル、実質ベース 17%増収）が売上を大きく伸ばしました。

営業利益

営業利益は前年同期比13%増益（実質ベース 7%増益）の23億米ドルとなりました。売上高営業利益率は、感染症治療薬の開発プロジェクトであるPTZ601の中止に伴う研究開発に関わる減損費用152百万米ドル計上の影響を受け、31.9%となりました。販売原価の評価増100百万米ドルおよび例外的な和解金収入42百万米ドルの営業外利益への計上は、いずれもFamvirに関するテバ社との最近の和解に関連するものです。

コア営業利益は前年同期比12%増益（実質ベース 6%増益）の24億米ドルとなりました。コア売上高営業利益率は、間接固定費配賦の減少、標準コスト低下およびロイヤリティ増

加を反映した棚卸資産評価減による、営業外収益の減少および他部門への売却（マイナス0.7ポイント）、また売上原価の増加（マイナス1.0ポイント）の影響も受け、33.3%となりました。研究開発費は、臨床試験活動の段階的実行が主な要因となり、0.7ポイント改善しました。販売費および一般管理費は生産性向上努力の継続が奏効し、前年同期から1.7ポイント改善しました。その他収益・費用（マイナス1.1ポイント）の費用純額の上昇は、主に2009年に上市製品在庫の引当金取り崩しによるプラス影響があったことによります。

◆ 循環器・代謝領域

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
高血圧症治療薬	1 735	1 579	1 590	9	5
ディオバン	1 442	1 312	1 402	3	-1
エックスフォージ	204	186	136	50	42
Tekturna / ラジレス	89	81	52	71	66
Galvus (エクア)	76	69	26	192	176
Lotrel	73	66	83	-12	-12
戦略製品 計	1 884	1 714	1 699	11	7
成熟製品	295	268	331	-11	-16
合計	2 179	1 983	2 030	7	3

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース（英語版）P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円（2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものです。

高血圧症治療薬（17億米ドル、実質ベース 5%増収）のポートフォリオ拡充により、ノバルティスは世界の高血圧症治療薬市場において、2009年1月のシェア14.4%に対し、2010年1月には15.3%を達成したことで（出典：IMS Health）、同市場におけるリーディング・ポジションを強化しました。バルサルタン（ディオバン）とアリスキレン（Tekturna/ラジレス）の配合剤は、併用療法へのシフトが引き続いていることを反映し、現在では高血圧症治療薬のポートフォリオにおける売上高の半分以上を占めています。

ディオバン（14億米ドル、実質 1%減収）の当期の売上高は、日本での2年に一度の薬価改定を前にした、アンジオテンシン受容体ブロッカー（ARB）市場の低迷が主な要因となり減少しました。当期の米国におけるディオバンの売上高は588百万米ドル（実質ベース1%増収）に達し、2010年2月のシェアが41.3%を記録（対2009年12月でプラス1.1ポイント、対2009年2月でプラス0.9ポイント、出典：IMS Health）するなどARBの中でトップシェアを維持しました。ディオバンはARBの中で唯一、高血圧、心筋梗塞後のハイリスク、心不全といった主要な3つの心疾患の効能・効果が認められた医薬品です。（日本での適応は高血圧症）

エックスフォージ（204百万米ドル、実質ベース 42%増収）は、販売国の拡大および米国と欧州におけるエックスフォージHCTの上市により、引き続き力強い成長を達成しました。ディオバン（バルサルタン）とカルシウム拮抗剤アムロジピンの配合剤であるエックスフォージは、2007年の上市以来、高血圧症併用療法に関して新たな基準を打ち立て続けています。また、利尿剤との配合剤であるエックスフォージHCTが米国と欧州で売上の伸びを牽引している中、エックスフォージは2010年1月に日本でも承認を取得しました。

Tekturna / ラジレス（89百万米ドル、実質ベース 66%増収）は、販売国の拡大およびTekturna/ラジレスの配合剤であるTekturna/ラジレスHCTとValturnaの発売が寄与し、高い成長率を示しています。Tekturna/ラジレスは直接的レニン阻害剤と呼ばれる新しいクラスの医薬品の中で唯一承認を得ている高血圧症治療薬です。米国では2009年末に上市されたア

リスキレンとバルサルタンの配合剤であるValturnaが、新たに成長を牽引しています。その他の開発中の配合剤には、米国・欧州で承認審査中のアリスキレンとアムロジピンの配合剤や、2010年に米国での承認申請が予定されているアリスキレン、アムロジピンと利尿剤の3剤の配合剤があります。

Galvus / Eucreas (76百万米ドル、実質ベース 176%増収) は経口2型糖尿病治療薬であり、ドイツ、スペイン、ブラジル、韓国、インドを筆頭に、多くの市場で持続的成長を達成しています。2010年1月にGalvusは、エクアという販売名で日本での承認を取得しました。

◆ オンコロジー領域

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期		前年同期比(%)	
	百万 米ドル	百万 億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース	
	グリベック	1 032	939	894	15	8
ゾメタ	375	341	342	10	5	
フェマーラ	344	313	286	20	15	
サンドスタチン	310	282	258	20	14	
エクジェイド	179	163	122	47	39	
タシグナ	75	68	35	114	102	
アフィニトール	41	37	1	—	—	
その他	49	44	59	-17	-22	
合計	2 405	2 189	1 997	20	14	

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース(英語版) P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円(2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入)にて換算したものです。

グリベック (10億米ドル、実質ベース 8%増収) は、慢性骨髄性白血病(CML)および消化管間質腫瘍(GIST)アジュバント療法での使用拡大により、成長を継続しました。特定の種類のCMLおよびGISTに対する標的治療薬であるグリベックは、最近では2009年にGISTアジュバント(術後)患者さんへの適応が承認されており、現在では北米、欧州、アジア・パシフィックの55カ国で承認されています。

タシグナ (75百万米ドル、実質ベース 102%増収) は、80カ国以上での承認と、グリベックを含む前治療に抵抗性あるいは不耐容を示す特定の種類のCML患者さんに対する二次治療薬としての市場浸透により、急速に売上を伸ばしています。2009年12月、ノバルティスは過去最大のグリベックとの標的薬直接比較試験であるENESTnd試験のデータに基づき、タシグナの初発の慢性期CML患者さんへの適応を米国・欧州およびその他各国で申請しました。2010年2月には、タシグナのこの申請が米国で優先審査品目に指定されました。また、グリベックの効果が限定的なCML患者さんや転移性GIST患者さんを対象とした臨床試験も実施中です。

ゾメタ (375百万米ドル、実質ベース 5%増収) は、服薬コンプライアンス向上や、欧州の主要市場を中心に、骨転移を伴うある種のがん患者さんにこのビスホスホネート静注療法が採用されていることにより、売上が拡大しています。閉経前女性における乳がんアジュバント療法の米国・欧州申請は2009年末に完了しました。

フェマーラ (344百万米ドル、実質ベース 15%増収) は、米国ならびにドイツ・フランス・イタリア・デンマークを筆頭とする欧州主要市場におけるシェア上昇により、引き続き二桁成長を達成しました。ホルモン感受性乳がんを患う閉経後女性に対する経口治療薬であるフェマーラは、世界のアロマターゼ阻害剤市場セグメントの伸びの約70%を占め、特に術後イニシャル・アジュバント療法での使用が顕著な伸びを示しました(出典: IMS Health

2009年第4四半期)。

サンドスタチン (310百万米ドル、実質ベース 14%増収) は、神経内分泌腫瘍 (NET) でのサンドスタチンLARの使用増加が貢献しました。

エクジェイド (179百万米ドル、実質ベース 39%増収) は、平均投与量の増加ならびに米国におけるアドヒアランスの改善、中東における販売拡大が貢献し、引き続き売上増加を達成しました。輸血による鉄過剰症に対する唯一の1日1回投与の経口治療薬として現在世界の100カ国以上で承認されているエクジェイドは、2009年に最大投与量40mgの新規用量が米国・欧州・スイスならびにその他各国で承認されました。

アフィニトール (41百万米ドル) は、欧州主要市場で最近上市されたことにより急速に売上を伸ばしています。経口のmTOR阻害剤であるアフィニトールは、VEGF標的療法後に進行した転移性腎細胞がん (RCC、腎がん) の新規治療薬として2009年に初めて承認を取得、その後、米国・欧州・スイス・日本で上市されました。現在、世界49カ国で承認されているアフィニトールは、他の複数のがん種での臨床試験も実施されています。神経内分泌腫瘍 (NET)、乳がん、リンパ腫、結節性硬化症 (TSC)、胃がんの適応で臨床第Ⅲ試験を実施中です。神経内分泌腫瘍 (NET) およびTSCの患者さんを対象とした臨床試験の結果に基づき、2010年に2つの承認申請が行われる可能性があります。肝細胞がん (HCC) 患者に対する後期試験は第2四半期に開始される予定です。

◆ 中枢神経・眼科領域

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
ルセンティス	364	331	229	59	43
Exelon/Exelon Patch	251	228	203	24	17
コムタン/Stalevo	141	128	123	15	9
Fanapt	21	19			
Extavia	20	18	3	—	—
その他	104	95	117	-11	-17
戦略製品 計	901	820	675	33	24
成熟製品	133	121	131	2	-7
合計	1 034	941	806	28	19

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース (英語版) P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円 (2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入) にて換算したものです。

ルセンティス (364百万米ドル、実質ベース 43%増収) は、2009年初めに販売を開始したフランス、イギリス、オーストラリア、日本を中心に、引き続き力強い成長を達成しました。このバイオ眼科治療薬は、滲出型加齢黄斑変性治療薬として世界80カ国で承認されています。滲出型加齢黄斑変性は50歳以上の主要な失明原因であり、現在ではこの疾患を患う25万人以上の患者さんがルセンティスを使用しています。中国では4月に本適応症の当局申請が受諾されました。2009年12月には、欧州で糖尿病性黄斑浮腫 (DME) による視力障害の治療薬としての申請が行われました。この製品の米国における権利は、ジェネンテック社が保有しています。

Exelon / Exelon Patch (251百万米ドル、実質ベース 17%増収) は、2007年にExelon Patchが発売されて以来、本製剤が売上を牽引しています。Exelonの売上高合計に占めるExelon Patchの割合は、前年同期の46%から2010年第1四半期は60%以上になりました。軽度および中等度のアルツハイマー型認知症 (欧州で承認済み) に対するこの治療薬 (米国では

パーキンソン病に伴う認知症でも承認済み)は、日本でも2月に承認申請されました。

Extavia (20百万米ドル)は、ロシア、イタリア、スペイン、米国など主要市場での販売国の拡大と、ドイツでの販売増が貢献し、売上を伸ばしました。**Extavia**は、再発性多発性硬化症治療薬Betaferon®/Betaseron®のノバルティスでの販売名であり、2009年に米国、2010年にカナダおよびロシアを含むその他20カ国以上で販売を開始しました。

◆ 呼吸器疾患領域

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
	ゾレア	80	73	61	31
TOBI	65	59	74	-12	-14
その他	2	2	-1	—	—
戦略製品 計	147	134	134	10	5
成熟製品	49	45	53	-8	-15
合計	196	178	187	5	-1

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース(英語版) P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円(2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入)にて換算したものです。

ゾレア (80百万米ドル、実質ベース 24%増収)は、欧州主要市場、中南米ならびに最近上市した日本でも売上を伸ばしています。また、2010年第1四半期は米国市場向けのジェネンテック社への売上高が前年同期と比べて減少しました。ノバルティスは米国でジェネンテック社とゾレアの共同プロモーションを実施しており、営業利益を分配しています。米国で中等度から重度の難治性アレルギー性喘息、欧州で重度の難治性アレルギー性喘息をそれぞれ適応とするバイオ医薬品のゾレアは80カ国以上で承認されており、世界的プレゼンスを有しています。中国では、臨床第Ⅲ相試験が2010年に開始される予定です。

Onbrez Breezhaler (QAB149) (3百万米ドル)は、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の成人患者を対象とした1日1回投与の持続型気管支拡張剤であり、2009年11月の欧州承認の後、2009年12月にドイツで、2010年3月にアイルランドおよびデンマークでそれぞれ販売を開始しました。2010年下半期には、イギリス、スペイン、ブラジル、メキシコを含む世界20カ国以上での上市が予定されています。また、中国では2010年の申請が予定されています。米国では、2009年10月に発行された追加データを求めるFDAの審査完了報告通知を受け、再申請に必要なすべての臨床試験がすでに開始されています。

◆ 免疫・感染症領域

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
ネオオーラル/サンディミュン	212	193	221	-4	-10
Reclast/Aclasta	123	112	85	45	41
Myfortic	100	91	73	37	27
サーティカン	34	31	23	48	36
その他	71	65	46	54	43
戦略製品 計	540	491	448	21	14
成熟製品	207	188	220	-6	-11
合計	747	680	668	12	6

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース(英語版) P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円(2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入)にて換算したものです。

Reclast / Aclasta (123百万米ドル、実質ベース 41%増収) は、米国および発売国の増加に牽引され、高い成長率を維持しました。**Reclast/Aclasta**は、骨粗しょう症治療に用いられる年1回投与の点滴薬であり、点滴センターの利用者増加や様々なタイプの骨粗しょう症患者さんに幅広く使用されるようになったことが好業績につながりました。

サーティカン (34百万米ドル、実質ベース 36%増収) は、臓器移植後に用いる免疫抑制剤で、その免疫抑制効果および安全性に基づき、臓器の拒絶反応抑制の適応症で現在約70カ国以上で販売されています。成人腎移植患者さんにおける拒絶反応抑制の適応症に対する米国での承認(販売名はZortressを予定)に向け、製品の添付文書およびリスク評価・軽減対策(REMS)に関してFDAとの協議が継続中です。FDAは2009年12月に審査完了報告通知を発行しましたが、追加の臨床試験実施は要求されていません。

Ilaris (ACZ885) (4百万米ドル) は、炎症性サイトカインIL-1 β の作用を阻害する完全ヒト型モノクローナル抗体であり、一連の希少な自己炎症性疾患であるクリオピリン関連周期性症候群(CAPS)治療薬として2009年に米国および欧州で承認されたのに続き、カナダ(2月)、ブラジル(3月)でも承認を取得しました。難治性痛風治療薬としてACZ885の承認申請は2010年後半に予定しています。また、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、2型糖尿病、全身型若年性突発性関節炎(SIJA)など、IL-1 β が重要な役割を果たすと考えられているその他の疾患に対する臨床試験も実施中です。

ワクチン・診断技術関連事業

第1四半期（1～3月）

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
売上高	1 361	1 239	247	451	436
営業利益	839	763	-67	—	—
売上高比 (%)	61.6				
コア営業利益	923	840	9	—	—
売上高比 (%)	67.8		3.6		

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース（英語版）P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円（2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものです。

売上高

A（H1N1）型インフルエンザワクチンおよびアジュバントに関する世界各国の政府との供給契約に対するさらなる供給により、11億米ドルの売上高が計上され、前年同期の4倍に上る増収となりました。このうち大半は2009年に締結された供給契約の一環として、当期に供給された製品の売上認識によるものです。さらに、新規ワクチンの*Menveo*が、髄膜炎菌性髄膜炎の4つの血清群に対する11歳以上の患者さんでの使用に関する米国・欧州での承認を受け、3月に上市されました。診断技術関連およびダニ媒介脳炎ワクチンを含むその他の2010年第1四半期の売上高は、2009年からほぼ横ばいとなりました。

ノバルティスは、2009年半ばの世界的大流行を受けた、米国を含む各国政府との契約履行のためのA（H1N1）型インフルエンザワクチンおよびアジュバントの供給の大半を現在までに済ませおり、A（H1N1）一価用量の製造はすでに終了しています。

2009年の世界的大流行の宣言後、ノバルティスは1億5千万回分以上のA（H1N1）型インフルエンザワクチンの2010年第1四半期末までの供給を可能とする大規模な投資を行いました。30,000人以上の方がA（H1N1）型インフルエンザワクチンの臨床試験に参加し、ワクチン供給の最大化を目的に、異なる3つの技術基盤（従来の鶏卵培養、細胞培養、MF59アジュバントワクチン）について承認を取得しました。ノバルティスはまた、グループ内の他の部門から1,000人以上を動員し、ワクチン供給の取り組みをサポートしました。

営業利益

営業利益は前年同期の67百万米ドルの赤字から、2010年第1四半期は839百万米ドルの黒字計上となりました。これは2009年の先行大型投資により可能となった、2010年第1四半期におけるA（H1N1）型インフルエンザワクチンによる貢献によります。

コア営業利益は前年同期の9百万米ドルから923百万米ドルに増加しました。2010年第1四半期はA（H1N1）型インフルエンザワクチンの市販後調査、開発後期段階にある*Menveo*および*MenB*の臨床開発プログラムを含む、研究開発への大規模投資を実施しました。前年同期と比べた販売費の上昇は、新興市場を中心とする販売国の拡大、および*Menveo*の米国発売に向けた販売・マーケティング基盤構築に活用されました。

サンド

第1四半期（1～3月）

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
売上高	2 001	1 821	1 726	16	9
営業利益	310	282	291	7	-1
売上高比 (%)	15.5		16.9		
コア営業利益	450	410	347	30	21
売上高比 (%)	22.5		20.1		

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース（英語版）P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円（2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものです。

売上高

すべての地域および事業が、前年と比較しサンドの加速する成長（20億米ドル、米ドルベース16%増収、実質ベース 9%増収）に貢献しました。新製品上市に伴う17ポイントの販売数量の増加、2009年9月のエベベ ファーマ社抗腫瘍注射剤事業の統合、バイオシミラー事業の継続した好業績が、価格低下による8ポイントのマイナス影響を上回りました。

米国のジェネリック医薬品およびバイオシミラー事業（実質ベース 19%増収）は、新製品上市（タクロリムス、ランソプラゾール、オキサリプラチン）が成功を収めたほか、抗生物質およびオンコロジー領域の注射剤の売上改善がありました。ドイツのジェネリック医薬品およびバイオシミラー事業（実質ベース 5%増収）は、業界トップクラスの市場のポジションを強化するとともに、主な支払い側が2009年に採用した入札システムに対してうまく勝ち残れるような事業モデルを確立し、市場が縮小する中、増収を達成しました。イタリア、イギリス、オーストリア、スイス、ベルギー、北欧諸国などの多くの市場が二桁成長を実現しましたが（実質ベース 11%増収）、フランスでは価格競争激化により売上が大きく減少するとともに市場シェアを下げました。新興市場は中東、トルコ、アフリカ（実質ベース 18%増収）、アジア・パシフィック（実質ベース 16%増収）、中欧および東欧（実質ベース 7%増収）を中心に、急速な伸びを示しました。バイオシミラー事業（実質ベース 81%増収）は、*Omnitrope*、*Binocrit*、*Filgrastim*の3つの新製品の貢献により、成長の勢いをさらに加速しました。

営業利益

営業利益は7%増益の310百万米ドルとなりましたが、売上高営業利益率が1.4ポイント低下し15.5%となった結果、為替調整後では1%の減益となりました。主な減益要因には、エベベ ファーマ社統合に関わる買収関連費用（マイナス0.7ポイント）、共同開発契約の終了に伴う特別費用（マイナス0.8ポイント）ならびに米国における平均卸売価格訴訟の和解のための引当金計上（マイナス1.9ポイント）などがあります。

コア営業利益は30%増益（実質ベース 21%増益）の450百万米ドルとなり、コア売上高営業利益率は前年同期から2.4ポイント上昇し、22.5%となりました。生産性向上効果が価格低下による影響を完全に相殺した結果、販売原価（プラス0.1ポイント）はわずかに改善しました。バイオシミラー事業や、中欧・東欧ならびにアジア・パシフィックへの投資を行った結果、販売費（マイナス0.9ポイント）は売上高の伸びを上回る増加率となりました。生産性向上効果がバイオシミラーやオンコロジー領域の注射剤、呼吸器疾患向け製品などのその他の差別化が図れるジェネリック医薬品の開発プログラムへの投資を上回った結果、研究開発費（プラス1.0ポイント）は減少しました。一般管理費（プラス0.8ポイント）は、コスト抑制策の継続により売上高よりも低い伸び率となりました。営業外収益・費用（プラス1.4ポイント）は、裁判費用の低下により前年同期に比較すると改善しました。

コンシューマーヘルス

第1四半期（1～3月）

	2010年 第1四半期		2009年 第1四半期	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^(注1)	百万 米ドル	米ドル ベース	実質 ベース
売上高	1 478	1 345	1 303	13	7
営業利益	264	240	235	12	3
売上高比 (%)	17.9		18.0		
コア営業利益	288	262	254	13	5
売上高比 (%)	19.5		19.5		

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース（英語版）P25.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円（2010年1-3月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものです。

売上高

OTC、アニマルヘルス、チバビジョンのコンシューマーヘルスの全3事業が、2010年第1四半期の増収に貢献しました（15億米ドル、米ドルベース13%増収、実質ベース7%増収）。これは2009年の金融危機による逆風があったにもかかわらず、すべての事業が各市場の伸びを上回る売上成長を達成したことによりもたらされました。

鎮痛薬、なかでも欧州のボルタレンおよび米国のExcedrinがOTCの好業績に大きく貢献する一方で、咳・風邪の流行が少なかったことが若干のマイナス要素となりました。2009年11月に上市したPrevacid24HRは、強力な広告・販促キャンペーンが奏効し、成長を遂げる米国OTCプロトンポンプ阻害剤市場で30%の市場シェアを達成しました。チバビジョンは新製品上市によりすべての地域で増収となり、2009年のすばらしい成長ペースを維持しました。コンタクトレンズのAirOptixシリーズがすべての主要市場でシェアを拡大し、好業績を牽引しました。アニマルヘルスは寄生虫駆除剤の強固な競争力が寄与し、米国で市場の伸びを上回る成長を達成しました。

米国（11%増収）は3事業すべてが力強い業績を達成しました。欧州（実質ベース5%増収）はドイツ、フランス、スペインの好業績により、力強い成長を実現しました。新興市場上位6カ国における売上高は、インドおよびトルコの二桁成長を筆頭にすべての国が業績に好影響を与えた結果、前年同期から27%の増収（実質ベース11%増収）となりました。ロシアでも政府による価格統制が最近あったにもかかわらず、二桁成長を達成しました。

営業利益

営業利益は、売上高営業利益率が0.1ポイント低下し17.9%となった結果、売上高の伸びを下回る12%の増益（実質ベース3%増益）の264百万米ドルとなりました。

コア営業利益は、コア売上高営業利益率が前年同期と同じ19.5%となった結果、13%増益（実質ベース5%増益）の288百万米ドルとなり、増収率とほぼ同レベルの伸びとなりました。営業外収益および他部門への売上高（プラス0.3ポイント）が上昇するとともに、売上原価（プラス0.5ポイント）は主要市場での大幅な売上成長、価格の最適化、生産性向上により改善しました。しかしながら、これらは2009年に上市したPrevacid24HRの米国での販売活動ならびに新興市場における販売人員拡充を主な要因とする販売費上昇（マイナス0.6ポイント）により大きく相殺されました。全事業で新製品開発投資を行った結果、売上高に占める研究開発費の比率は前年同期と同等となりました。2010年第1四半期の一般管理費（マイナス0.3ポイント）は、2009年に実施した引当金戻入れの影響を受け、上昇しました。営業外収益・費用（プラス0.1ポイント）は前年同期とほぼ同レベルとなりました。

研究開発概要

ノバルティスは58の新規化合物を含む135の臨床開発プロジェクトを保有し、業界で最も競争力ある開発パイプラインを持つ企業の一つです。

2010年第1四半期の進捗は次の通りです:

- 日本では2009年の6つの新薬の承認取得に続き、1月にアフィニトール（腎細胞がん）、エクア（Galvus）（2型糖尿病）、エックスフォージ（高血圧症）の承認を取得。
- 髄膜炎ワクチンであるMenveoの初の承認を11歳以上で米国（2月）および欧州（3月）で取得。さらに2~10歳での使用を米国で申請。
- Tekturna/ラジレス、アムロジピン、ヒドロクロロチアジドの3つの高血圧症治療薬を一剤にした配合剤を米国で、Exelon Patch（アルツハイマー病）とタシグナ（がん）を日本でそれぞれ申請。
- 2009年末に米国で申請したタシグナ（初発の慢性骨髄性白血病）およびGilenia（FTY720、多発性硬化症）が、優先審査品目に指定される。
- 臨床第I相試験において有害事象が高い頻度で観察されたPTZ601（ブドウ球菌による皮膚および軟組織の複雑性感染症）、およびストレス反応の低下による安全性の問題が確認されたLCI699（心不全）の開発を中止。ASA404（非小細胞肺癌）に関する2件の臨床第III相試験のうち1件を、NSCLCの患者さんに対するベネフィットに関する中間解析結果に基づき3月に中止。

2010年の主要承認品目（抜粋）：米国、欧州、日本

製品名	有効成分（一般名）	適応症	承認地域および時期
アフィニトール	エベロリムス	腎細胞がん	日本 - 第1四半期
エクア (Galvus)	ビルダグリプチン	2型糖尿病	日本 - 第1四半期
エックスフォージ	バルサルタンおよびアムロジピン	高血圧症	日本 - 第1四半期
Menveo	四価髄膜炎菌性共役ワクチン	髄膜炎菌性髄膜炎予防 (A、C、Y、W-135)	米国、EU - 第1四半期

承認申請中の開発プロジェクト（抜粋）

製品名	適応症	申請時期			最新ニュース
		米国	EU	日本	
ABF656	C型肝炎	2009年Q4			- EUでは技術的問題から2010年4月に申請取り下げ
Exelon Patch	アルツハイマー病	承認済み	承認済み	2010年Q1	
FTY720 (Gilenia)	多発性硬化症	2009年Q4	2009年Q4		- FDAが6カ月間の優先審査品目に指定；諮問委員会の会議は6月10日に予定
ルセンティス	糖尿病性黄斑浮腫		2009年Q4		

製品名	適応症	申請時期			最新ニュース
		米国	EU	日本	
QAB149	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	2008年Q4	承認済み		- FDAの審査完了報告通知 (2009年第四半期) に対応するため、臨床試験を実施中；再申請は2010年を予定
タシグナ	初発の慢性骨髄性白血病 (CML)	2009年Q4	2009年Q4	2010年Q1	- FDAが6カ月間の優先審査品目に指定
Tekturnaとアムロジピンの配合剤	高血圧症	2009年Q4	2009年Q4		
Tekturna、アムロジピン、ヒドロクロロチアジドの配合剤	高血圧症	2010年Q1			- 米国では2010年2月に申請済み - EU申請は2010年の予定
TOBI-TIP	嚢胞性線維症		2009年Q4		- 米国申請は2010年の予定
ゾメタ	乳がんアジュバント療法	2009年Q4	2009年Q4		
Zortress (サーティカン)	腎移植	2009年Q2	承認済み		- FDAからの指摘事項に対応中

医薬品の開発プロジェクト (抜粋)

プロジェクト/化合物	予定適応症/疾患領域	申請予定	現在のフェーズ	最新ニュース
ACZ885	難治性痛風	2010年	III	- 2010年の申請に向け、計画通り進捗中
	全身型若年性突発性関節炎 (SJIA)	2011年	III	
	2型糖尿病	2012年	II	- 2010年12月に臨床第III相試験を開始予定
AFQ056	パーキンソン病	2012年	II	
AGO178	大うつ病性障害	2012年	III	
AIN457	ベーチェット病によるぶどう膜炎	2010年	III	- 2010年の申請に向け、計画通り進捗中
	非感染性ぶどう膜炎	2011年	III	
	乾癬	2013年	II	- 臨床第III相試験を2011年に開始予定
	関節リウマチ	2013年	II	- 臨床第III相試験を2010年末に開始予定
ASA404	非小細胞肺癌 (NSCLC)	2012年	III	- NSCLCの一次治療薬としての臨床第III相試験は2010年3月に中止；NSCLCの二次治療薬としての臨床第III相試験は継続中 - 2012年下半年に中間解析予定
BAF312	多発性硬化症	2014年以降	II	
サーティカン	臓器拒絶反応の抑制 - 肝移植	2011年	III	

プロジェクト/ 化合物	予定適応症/疾患領域	申請予定	現在の フェーズ	最新ニュース
DEB025	C型肝炎	2014年以降	II	- Debiopharm社から2010年第1四半期にライセンス導入
EPO906	卵巣がん	2010年	III	- 2010年の申請に向け、計画通り進捗中
エクジェイド	輸血非依存性サラセミア (NTDT)	2011年	II	
INC424	骨髄線維症	2011年	III	
LBH589	ホジキンリンパ腫	2010年	II	- 2010年の申請に向け、計画通り進捗中 - 最新臨床第II相中核試験データをASCOで発表予定
	多発性骨髄腫	2013年	III	
	血液腫瘍	2014年以降	II	
LCQ908	2型糖尿病	2013年	II	- 臨床第II相試験の中間結果が2010年下半年に得られる予定
LCZ696	心不全	2013年	III	
LDE225	ゴーリン症候群	2011年	II	
ルセンティス	網膜静脈閉塞症	2011年	II	
NVA237	COPD	2011年	III	
PKC412	侵襲的な全身性肥満細胞症	2011年	II	
	急性骨髄性白血病	2013年	III	
PRT128	急性冠症候群 (ACS) 慢性冠動脈性心疾患 (CHD)	2013年	II	- INNOVATE-PCI 臨床第II相試験の最初のデータは2010年第2四半期に得られる予定 - 臨床第III相試験はCHDが2010年下半年、ACSが2011年の予定
PTK796	感染症	2012年	III	
QAX028	COPD	2014年以降	II	
QMF149	COPD	2013年	II	
	ぜん息	2013年	II	
QT1571 (グリベック)	肺動脈高血圧症	2011年	III	- 臨床第III相試験の患者登録を実施中
QVA149	COPD	2012年	II	- 臨床第III相試験を2010年に開始予定
RAD001 (アフィニトール)	神経内分泌腫瘍	2010年	III	- 2010年の申請に向け、計画通り進捗中
	結節性硬化症 上衣下巨細胞性星状細胞腫 (SEGA)	2010年	III	- 2010年の申請に向け、計画通り進捗中
	結節性硬化症 急性骨髄性白血病 (AML)	2011年	III	
	ER陽性乳がん	2012年	III	
	HER2陽性乳がん	2013年	III	
	胃がん	2012年	III	
	リンパ腫	2014年以降	III	

プロジェクト/ 化合物	予定適応症/疾患領域	申請予定	現在の フェーズ	最新ニュース
RLX030	急性心不全	2013年	III	- 2010年第1四半期にCorthera社を買収 (relaxin)
SRB759	高リン血症	2011年	III	
SMC021	骨関節炎	2011年	III	
	骨粗しょう症	2011年	III	
SOM230	クッシング病	2010年	III	- 2010年の申請に向け、計画通り進捗中
	先端巨大症	2011年	III	
	難治性 / 抵抗性カルチノイド症候群	2011年	III	
タシグナ	消化管間質腫瘍 (GIST)	2014年以降	III	
	cKIT 黒色腫	2012年	II	
TKI258	固形がん	2013年	II	

ワクチンの開発プロジェクト (抜粋)

プロジェクト/ 化合物	予定適応症/疾患領域	申請予定	現在の フェーズ	最新ニュース
Menveo (髄膜炎血清群 A,C,W,Y)	幼児の髄膜炎 (血清群 A, C, Y, W-135) の予防	2011年 (EU/米国)	III	
	2~10歳の髄膜炎 (血清群 A, C, Y, W-135) の予防			- 2010年第1四半期米国申請
MenB (髄膜炎血清群 B)	幼児の髄膜炎 (血清群 B) の予防	2010年 (EU)	III	- 臨床第III相試験での必要条件を議論する、臨床第II相試験終了後のFDAとのミーティングは2010年第3四半期に開催予定

免責条項

本リリースには、現時点における将来の予想と期待が含まれています。従って、その内容に関して、また、将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる場合があることをご了解下さい。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けておりますForm 20-Fをご参照下さい。

ノバルティスについて

ノバルティスは、ヘルスケアにおける世界的リーダーです。革新的な新薬、高品質かつ安価なジェネリック医薬品、予防のためのワクチン・診断関連事業、そしてコンシューマー向け的一般用医薬品、コンタクトレンズ、動物用医薬品など、幅広い分野の製品を提供しています。ノバルティス グループ全体の2009年の売上高は443億米ドル、研究開発費は75億米ドルでした。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約100,000人の社員を擁しており、世界140カ国以上で製品が販売されています。詳細はインターネットをご覧下さい。 <http://www.novartis.com>

参考資料: 2010年第1四半期(1~3月)医療用医薬品の売上上位20製品(無監査) 注) 日本円は参考のため表示したものである。換算レートは、原文リリース(英語版)P. 25. 4. Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=91円(2010年第一四半期 期中平均レート、小数点第1位を四捨五入)にて換算したものである。

製品名	適応症	米国			米国以外			合計			
		百万 米ドル	億円	前年同期比 実質 ベース(%)	百万 米ドル	億円	前年同期比 実質 ベース(%)	百万 米ドル	億円	前年同期比 米ドル ベース(%)	実質 ベース(%)
ディオバン/ コディオ	高血圧症	588	535	1	854	777	-2	1 442	1 312	3	-1
グリバック	慢性骨髄性白血病	286	260	17	746	679	5	1 032	939	15	8
ゾメタ	悪性腫瘍による骨転移	178	162	0	197	179	10	375	341	10	5
ルセンティス	加齢黄斑変性				364	331	43	364	331	59	43
フェマーラ	乳がん	159	145	21	185	168	10	344	313	20	15
サンドスタチン	先端巨大症/神経内分泌腫瘍	122	111	15	188	171	13	310	282	20	14
Exelon/ExelonPatch	アルツハイマー病	98	89	26	153	139	12	251	228	24	17
ネオーラル/ サンディミュン	移植	22	20	-15	190	173	-9	212	193	-4	-10
エックスフォージ	高血圧症	66	60	35	138	126	45	204	186	50	42
ボルトレン (OTC 除く)	炎症/疼痛	1	1	0	184	167	2	185	168	6	2
トップ10製品 計		1 520	1 383	9	3 199	2 910	8	4 719	4 293	14	8
エクジエイド	慢性鉄過剰症	62	56	44	117	106	36	179	162	47	39
コムタン/Stalevo	パーキンソン病	54	49	6	87	79	11	141	128	15	9
Reclast / Aclasta	骨粗しょう症	79	72	34	44	40	56	123	112	45	41
リタリン/Focalin	注意力欠如障害/多動症候群	90	82	-2	29	26	19	119	108	5	2
Lescol/ ローコール	高コレステロール血症	24	22	-23	91	83	-22	115	105	-18	-22
Myforic	移植	37	34	28	63	57	27	100	91	37	27
Tektuma/ ラジレス	高血圧症	43	39	30	46	42	130	89	81	71	66
テグレートール	てんかん	18	16	-44	70	64	2	88	80	-8	-14
Foradil	ぜんそく	5	5	25	82	75	-13	87	80	-4	-12
ゾレア	ぜんそく	0	0	-100	80	73	77	80	73	31	24
トップ20製品 計		1 932	1 758	8	3 908	3 555	9	5 840	5 313	14	9
その他製品		448	408	1	1 003	913	4	1 451	1 321	9	3
医薬品売上高 計		2 380	2 166	6	4 911	4 468	8	7 219	6 634	13	7